

環境ユニバーサルデザイン

「ユニバーサルデザイン」という言葉を最近よく見聞きするようになった。アメリカの大学の教員が、一九八〇年代、自ら車椅子生活となり、障害者用の品物のデザインや種類が非常に限られていることを知って、健常者も障害者も、共に使いやしく、しかも楽しめる製品や空間があれば、と考えたのである。そこで、日用品や建物などを誰でも使いやしく、しかも見た目にも美しいデザインにと提案し、その考えに賛同した人々によって世界中にこのアイデアが広がりがつつある。

これまでは、「バリアフリー化」といってもともと健常者を基準にデザインして建てた建築物を障害者対応にリフォームすることなどが行われてきた。駅構内のトイレを車椅子対応にするとか、エレベーターを取り付けるなどの工事が行われているのに遭遇することも多いだろう。しかしそれだと、そのため予算が別に必要になるし、建物内の動線上開

題が生じる可能性もある。工事期間中何かと不便でもある。

しかし、最初から「あなたも私もいつか身障者になる」という前提で、身障者にとって使いやしい建物、製品をデザインしておけば、経済的なコストも当初予算に吸収できるし、外見上も美しい。身障者にとっても使いやしい建物や製品は、健常者にとっても使いやしいのである。

このような「ユニバーサル」の考えをさらに広げて、健康な人も、環境中の化学物質に対して敏感な人も対象に街をデザインする、というのはどうだろうか。私たちはこれを「環境ユニバーサルデザイン」と呼んでいる。現在、千葉県柏市にある「千葉大学環境健康フィールド科学センター」敷地内に、シツクハウス症候群の人たちを対象にした一戸建て家屋や診療所、講義棟などを建設する「ケミレスタウン」プロジェクトが進んでいる。

シックハウス症候群は、新築の家屋内で建材から揮発する化学物質によって目やのどが痛くなったり、発熱したり、関節が痛くなるなどさまざまな症状が出る疾病である。

シックハウス症候群というのは、もともと健康だった人が、その家に住んだために発症する。つまり、その家に住まなければその人は健康に過ごせたのである。住宅だけではなく、子供が日中のほとんどを過ごす学校の中、あるいは職場などで同様な症状を示すこともある。しかし、この症状は個人差が大きく、敏感な人もいれば、なんとも感じない人もいる。また、家屋由来のみならず、家具や洗剤などで体調を悪くする人もいる。

そこで、体質的に化学物質に弱い人を基準にした「環境ユニバーサルデザイン」で街づくりを行うのが「ケミレスタウンプロジェクト」である。「ケミレス」とは、「ケミカル（化学物質）」が「レス（少ない）」という意味からつくった造語である。要するに、本来に必要な化学物質のみ使い、不必要な化学物質を使わないように街づくりを行うことを目

指す。シックハウス症候群を疑われる小児とその家族に、敷地内の住宅に一週間から数ヶ月程度滞在してもらい、症状の改善を図る。症状が改善されれば、家に原因があることがわかるし、改善されなければ家以外の何らかの原因が考えられる。

住宅を建てるにも、学校や病院などの施設を建てるにも、環境ユニバーサルデザインを取り入れることで、現在健康な人も、敏感な人も、さらにこれから生まれてくる世代の人たちも、より健康的に生活できる。サステイナブルな社会を実現するには、何か特別なものをつくるのではなく街づくりのスタートから基準を弱者に合わせておくことが重要である。ケミレスタウンは環境ユニバーサルデザインの中の一つの取り組みである。

しかし、このようなモデルタウンが大学の中で試みられているだけでは、社会全体にとってのメリットは少ない。周辺自治体を巻き込み、メディアの協力も得ながら、日本や世界にこの環境ユニバーサルデザインによる街づくりを広めていきたいものである。

戸高恵美子

千葉大学助手
(リスクコミュニケーション)